

主要地方道成田松尾線 XIII

—芝山町出口向遺跡210地点・新山遺跡43-10地点・宝馬遺跡93-204地点—

平成14年3月

千葉県土木部
財団法人 千葉県文化財センター

主要地方道成田松尾線 XIII

——芝山町出口向遺跡210地点・新山遺跡43-10地点・宝馬遺跡93-204地点——



序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告書第419集として、千葉県土木部の主要地方道成田松尾線改良事業に伴って実施した山武郡芝山町出口向遺跡210地点、新山遺跡43-10地点、宝馬遺跡93-204地点の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、縄文時代の遺構等の資料が得られるなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また郷土の歴史を理解するための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を始めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成14年3月31日

財団法人千葉県文化財センター

理事長 清水 新次

凡　　例

- 1 本書は主要地方道成田松尾線道路改良事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書は下記の遺跡を収録したものである。
 - 出口向遺跡210地点 千葉県山武郡芝山町宝馬字出口向210ほか（遺跡コード409-037）
 - 新山遺跡43-10地点 千葉県山武郡芝山町宝馬字新山43-10ほか（遺跡コード409-036）
 - 宝馬遺跡93-204地点 千葉県山武郡芝山町宝馬字宝馬93-204ほか（遺跡コード409-035）
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県土木部の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の担当者、実施期間は本文中に記載した。
- 5 本書の執筆は、上席研究員 遠藤 治雄が担当した。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁生涯学習部文化課、千葉県土木部道路建設課、成田土木事務所、芝山町教育委員会の御指導、御協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。
 - 第2図 第6図 芝山町発行1/2,500都市計画図「芝山町」(17)
- 8 周辺地形航空写真是、京葉測量株式会社による平成12年撮影（1/10,000）のものを使用した。
- 9 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。

本文目次

第1章 はじめに.....	1
第1節 調査の経過.....	1
第2節 調査の方法.....	1
第3節 遺跡の位置と環境.....	1
第2章 出口向遺跡210地点.....	4
第1節 調査の概要.....	4
第3章 新山遺跡43-10地点.....	5
第1節 調査の概要.....	5
第4章 宝馬遺跡93-204地点.....	6
第1節 調査の概要.....	6
第2節 基準層序.....	6
第3節 遺構と遺物.....	9
1 繩文時代の遺構.....	9
2 繩文時代の遺物.....	9
3 古墳時代.....	9
4 中・近世.....	9
第5章 まとめ.....	11
報告書抄録.....	卷末

挿図目次

第1図 グリッド設定図.....	2	グリッド設定図	5
第2図 出口向遺跡210地点・		第5図 宝馬遺跡93-204地点基準層序.....	6
新山遺跡43-10地点周辺地形図	3	第6図 宝馬遺跡93-204地点周辺地形図.....	7
第3図 出口向遺跡210地点確認調査トレンチ・		第7図 宝馬遺跡93-204地点確認調査トレンチ・	
グリッド設定図.....	4	グリッド設定図及び遺構実測図.....	8
第4図 新山遺跡43-10地点確認調査トレンチ・		第8図 宝馬遺跡93-204地点遺物実測図.....	10

図版目次

図版 1 遺跡周辺航空写真	宝馬遺跡93-204地点確認トレンチ
図版 2 出口向遺跡210地点全景	図版 4 宝馬遺跡93-204地点土層断面
出口向遺跡210地点確認トレンチ	宝馬遺跡93-204地点 1号土坑
新山遺跡43-10地点全景	宝馬遺跡93-204地点 2号炉跡
図版 3 新山遺跡43-10地点確認トレンチ	図版 5 宝馬遺跡93-204地点出土遺物
宝馬遺跡93-204地点全景	

第1章 はじめに

第1節 調査の経過

主要地方道成田松尾線は芝山町大里と松尾町五反田を結ぶ県道として計画された。現在、成田市大里から芝山町宝馬間及び芝山町大台から松尾町五反田間が開通している。

財団法人千葉県文化財センターでは昭和53年度から千葉県土木部の委託を受けて、路線内に所在する埋蔵文化財の発掘調査を実施し、報告書を刊行している¹⁾。各年度ごとの担当は次のとおりである。

平成12年度

発掘調査 出口向遺跡210地点、新山遺跡43-10地点、宝馬遺跡93-204地点

東部調査事務所長 折原 繁 上席研究員 鈴木弘幸 研究員 豊田秀治

平成13年度

整理作業 出口向遺跡210地点、新山遺跡43-10地点、宝馬遺跡93-204地点

水洗・注記から原稿執筆、報告書刊行まで

東部調査事務所長 折原 繁 調査室長 西口 徹 上席研究員 遠藤治雄

第2節 調査の方法

調査対象範囲全域に、公共座標に合わせて東西南北に40m×40mの方眼網を設定し、大グリッドとした。大グリッドの呼称法は、北西に起点を置いて北から南に1～23区とし、西から東へA～M区として、これを組み合わせて使用した。大グリッド内には4m×4mに100分割の小グリッドを設定し、北西隅を起点に00、01、02として南西隅を99とした。グリッド名はこれにより、大グリッドと小グリッドを組み合わせて、2B-14のように表示することとした。(第1図)

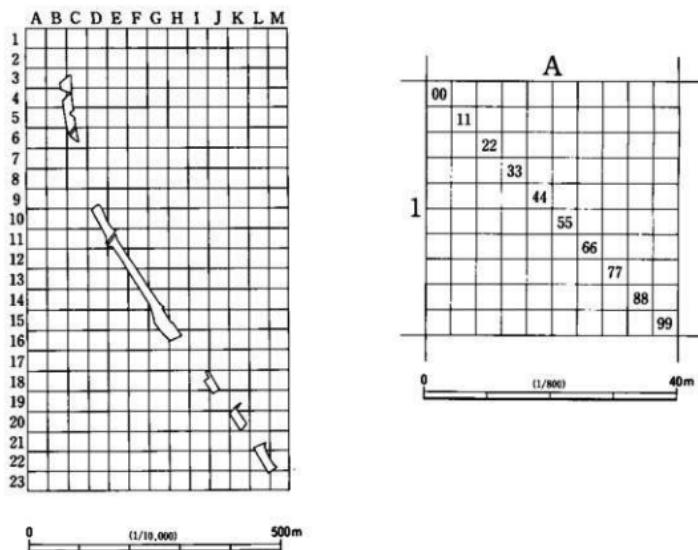
3遺跡とも上層の確認調査のトレンドを遺跡面積の10%に設定して確認調査を実施し、その結果から上層の本調査の実施の有無を決定することとした。下層についても2m×2mのグリッドを遺跡面積の2%に設定して確認調査を実施し、その結果から下層の本調査の実施の有無を決定することとした。

第3節 遺跡の位置と環境

房総半島は、ほぼ中央(木更津と茂原を結ぶ線)で地形が二分される。北半分は下総台地と東京湾岸、九十九里海岸及び利根川流域の低地、南半分は上総丘陵、横岡山塊などから構成される安房丘陵などの山地的な地形である。

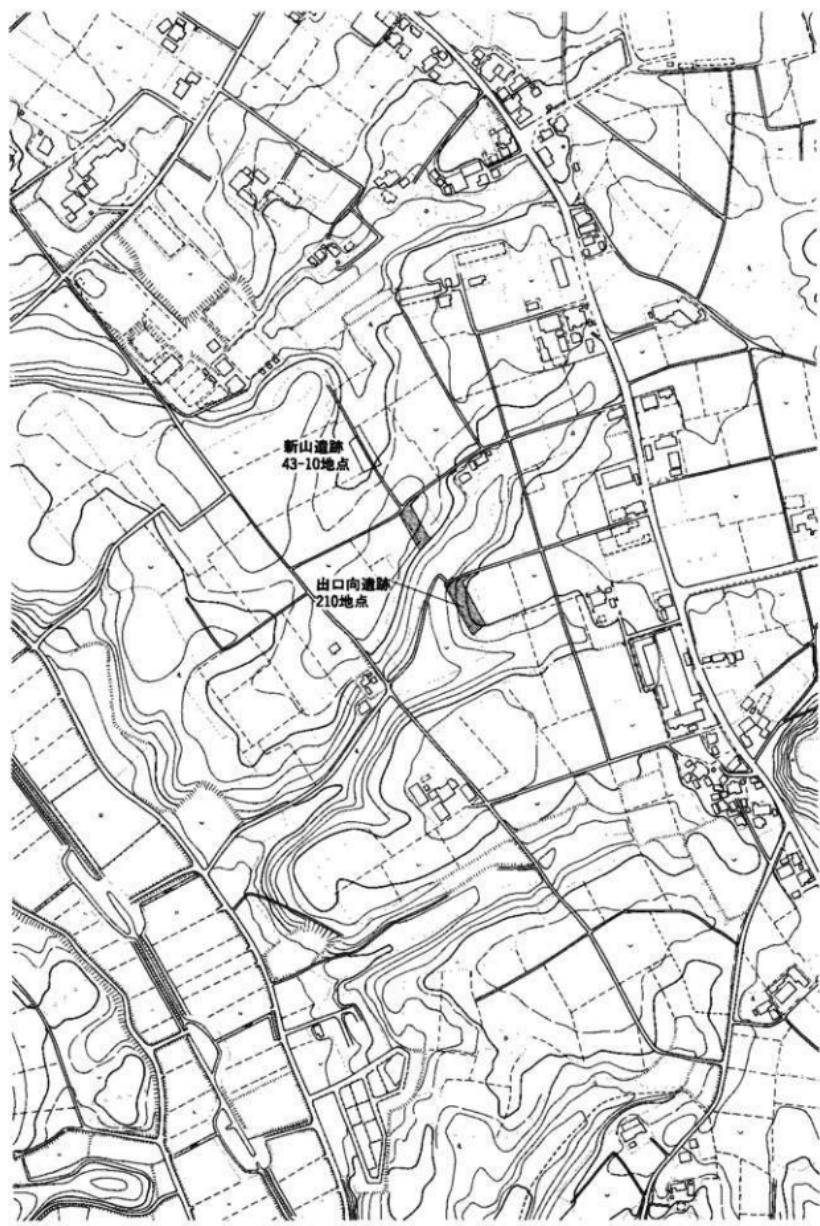
本書の3遺跡が所在する山武郡芝山町は、千葉県の北東部に位置し、地形的には下総台地の南東部に当たる。下総台地は標高15m～80mの平坦な台地であるが、利根川、東京湾及び太平洋に注ぐ大小河川により浸食を受け、樹枝状の複雑な地形を呈している。下総台地南東部では九十九里海岸に注ぐ木戸川、栗山川及びその支流の浸食を受け、南西方向へ細長く延びる舌状台地が並んでいる。これらの台地上の平坦部には、ほとんど全域に遺跡が確認されている²⁾。

本書の3遺跡は、木戸川に浸食された標高42mの台地縁辺部に位置している。



第1図 グリッド設定図

- 注 1 萬崎博昭ほか 昭和58年 「主要地方道成田松尾線Ⅰ 小池麻生遺跡 小池向台遺跡」
千葉県文化財センター
高橋賢一ほか 昭和60年 「主要地方道成田松尾線Ⅱ 小池新林遺跡 小池地蔵遺跡」
千葉県文化財センター
萬崎博昭ほか 昭和61年 「主要地方道成田松尾線Ⅲ 鯉ヶ窪遺跡 中台柿谷遺跡 遠山天之作遺跡」
千葉県文化財センター
伊藤 智樹ほか 昭和61年 「主要地方道成田松尾線Ⅳ 小池元高田遺跡 柳谷遺跡 上宿遺跡 井森戸
遺跡」
千葉県文化財センター
宮 重行ほか 昭和62年 「主要地方道成田松尾線Ⅴ 中台貝塚・松尾東雲遺跡・八田太田台遺跡」
千葉県文化財センター
渡邊高弘ほか 平成3年 「主要地方道成田松尾線Ⅵ 芝山町小池地蔵II遺跡 宮門遺跡」
千葉県文化
財センター
渡邊高弘ほか 平成4年 「主要地方道松尾線Ⅶ 芝山町御田台 小池新林遺跡」
千葉県文化財センター
石塚 浩 平成10年 「主要地方道成田松尾線Ⅷ 松尾町名城遺跡」
千葉県文化財センター
香取正彦ほか 平成10年 「主要地方道成田松尾線Ⅸ 大台西藤ヶ作遺跡 大堀切遺跡 洞谷台遺跡 深
田台遺跡」
千葉県文化財センター
石倉亮治ほか 平成11年 「主要地方道成田松尾線X 芝山町浅間台遺跡」
千葉県文化財センター
石倉亮治ほか 平成11年 「主要地方道成田松尾線XI 芝山町山田宝馬古墳群」
千葉県文化財センター
2 千葉県教育委員会 平成10年 「千葉県埋蔵文化財分布地図(2) -香取・海上・匝瑳・山武地区(改訂
版)」



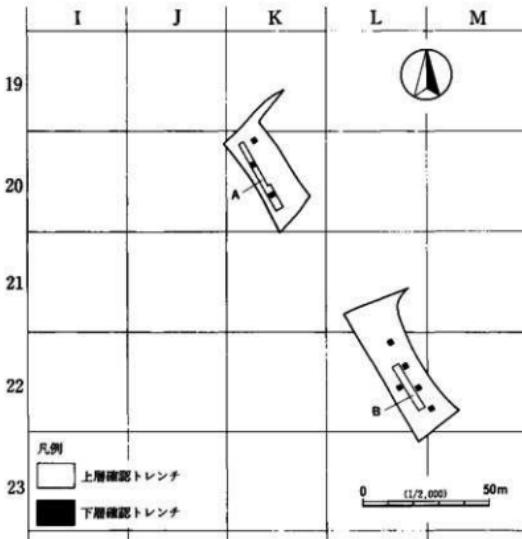
第2図 出口向遺跡210地点・新山遺跡43-10地点周辺地形図

第2章 出口向遺跡210地点

第1節 調査の概要

出口向遺跡210地点は、山武郡芝山町宝馬字出口向210ほかに所在し、栗山川支流の高谷川の支谷によって開析された舌状台地基部に位置する(第2図)。隣接した遺跡の調査例として、北側の深田台遺跡、沖ノ台Ⅰ遺跡、沖ノ台Ⅱ遺跡、大台西藤ヶ作遺跡がある。これらはいずれも主要地方道成田松尾線の建設に伴う発掘調査である。沖ノ台Ⅰ遺跡は近接する北側の台地上に位置する。古墳時代後期の堅穴住居跡などが検出され、小鍛治跡も検出されている。また、調査区外の南側山林中では精錬炉跡の存在が確認されている。沖ノ台Ⅱ遺跡は沖ノ台Ⅰ遺跡の斜面部及び深田台遺跡との間の小支谷内にある。沖ノ台Ⅰ遺跡の製鉄遺構に関連した遺跡で、炭窯跡、作業場遺構が検出されている。また、遺物として製鉄の際に破壊された精錬炉の破片及び鉄滓が多く出土している。深田台遺跡は奈良・平安時代の住居跡が4軒検出されている。調査区外の東側と西側に同時期の集落跡が展開している可能性は高い。

今回の発掘調査は道路建設に伴う調査で、遺跡内を北西から南東へ長く帯状に調査した。対象面積は1,534m²で道路建設用の輶杭に沿って細長くグリッドを設定し、確認調査を行った。調査は平成12年11月1日から同年12月15日まで実施した。グリッド及び調査区の長辺に合わせて確認グリッドを設定し、調査を開始した。調査は上層確認調査、上層本調査、下層確認調査、下層本調査の順に行う予定であったが、上層確認調査(190m²)において遺構が検出されなかったため、本調査は実施しなかった。下層においても確認調査(32m²)を行ったが、石器等が検出されなかったため、本調査は実施しなかった(第3図)。



第3図 出口向遺跡210地点確認調査トレンチ・グリッド設定図

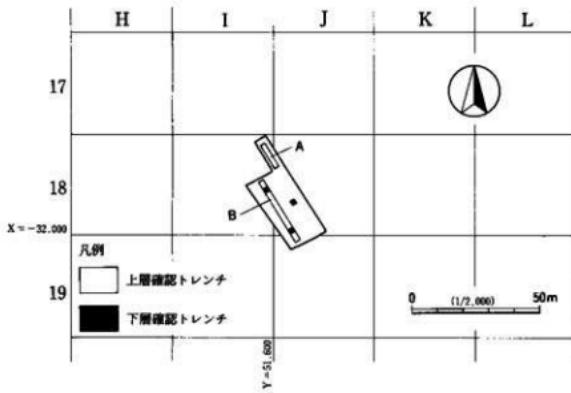
第3章 新山遺跡43-10地点

第1節 調査の概要

新山遺跡43-10地点は、山武郡芝山町宝馬字新山43-10ほかに所在し、栗山川支流の高谷川の支谷によって開析された支谷の谷東部に位置する（第2図）。出口向遺跡の20m北西に位置する。

今回の発掘調査は道路建設に伴う調査で、遺跡内を北西から南東へ長く帯状に調査した。対象面積は463m²で、道路建設用の幅杭に沿って細長くグリッドを設定し、確認調査を行った。

調査は平成12年11月1日から同年12月15日まで実施した。グリッド及び調査区の長辺に合わせて確認グリッドを設定し、調査を開始した。調査は上層確認調査、上層本調査、下層確認調査、下層本調査の順に行う予定であったが、上層確認調査（46m²）において遺構が検出されなかったため、本調査は実施しなかった。下層についても確認調査（12m²）を行ったが、石器等が検出されなかったため本調査は実施しなかった。（第4図、図版2・3）



第4図 新山遺跡43-10地点確認調査トレンチ・グリッド設定図

第4章 宝馬遺跡93-204地点

第1節 調査の概要（第7図、図版3）

宝馬遺跡93-204地点は、山武郡芝山町宝馬93-204ほかに所在し、栗山川支流の高谷川の支谷最深部の標高約40mの台地上に位置する（第6図）。新山遺跡が南東90mに位置している。

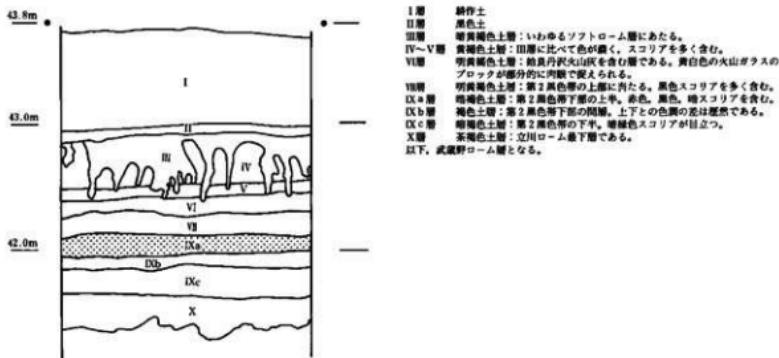
今回の発掘調査は道路建設に伴う調査で、国道296号線との取り付け部分に当たる。道路用地は遺跡内を東西方向に横断している。対象面積は850m²で、道路建設用の幅杭に沿って細長くグリッドを設定し、確認調査を行った。

調査は平成12年11月1日から同年12月15日まで実施した。座標及び調査区の長辺に合わせて確認グリッドを設定し、調査を開始した。上層確認調査(695m²)において縄文の土坑1基、炉跡1基が確認されたものの遺構が稀薄のため、本調査は実施しなかった。下層についても確認調査(140m²)を行ったが、石器等が検出されなかったため、本調査は実施しなかった。（第7図、図版3）

第2節 基準層序（第5図、図版4）

本遺跡を含む3遺跡に於いて、旧石器の出土は認められなかつたがなかつたが、今後の参考とするため宝馬遺跡93-204地点の層序を掲載する。なお、出口向遺跡210地点、新山遺跡43-10地点の層序も宝馬遺跡93-204地点とほぼ同じ層序を示す。

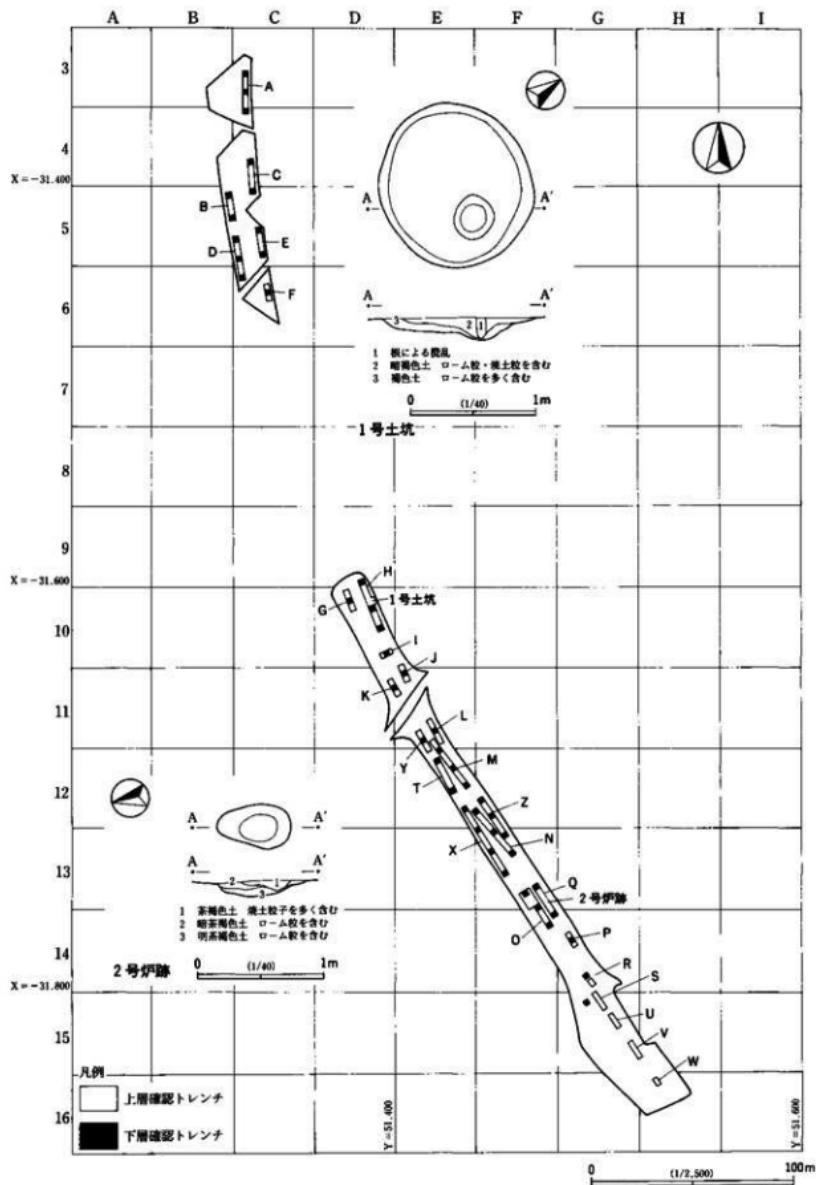
本遺跡の立川ローム層の特徴としては、上層部においてソフト化による浸食が顕著であり、III・IV層は完全にソフト化されVI層の上部まで及んでいることである。また、第2黒色帯であるVII層の堆積が顕著である。



第5図 宝馬遺跡93-204地点基準層序



第6図 宝馬遺跡93-204地点周辺地形図



第7図 宝馬遺跡93-204地点確認調査トレンチ・グリッド設定図及び遺構実測図

第3節 遺構と遺物

1 繩文時代の遺構

1号土坑（第7図、図版4）

10Dグリッドに所在する。深さは確認面より18cmである。形状はほぼ円形であり、最大径約1.2m、覆土に焼土粒子をわずかに含む、比較的しまりのある土層である。遺物は検出されていないが、形状及び覆土の状況等から縄文時代の土坑と思われる。

2号炉跡（第7図、図版4）

13Fグリッドに所在する。深さは確認面より12cmである。形状はほぼ橢円形であり、長軸60cm、短軸35cmである。覆土には焼土粒子を多く含み、しまりがある。遺物は検出されていないが、覆土の状況や周辺より縄文土器の検出もみられ、縄文時代の炉跡と思われる。

2 縄文時代の遺物（第8図、図版5）

遺構に伴う遺物は検出されていない。遺物は、いずれも表土中より出土した。

1は縄文土器の破片である。Lトレンチの表土中より出土した。口縁部の破片であり、全体の形状は不明である。色調は褐色であり、焼成は不良である。胎土に雲母の混入が顕著であり、縄文時代中期の阿玉台式土器の破片と思われる。

2は縄文土器の破片である。Qトレンチの表土中より出土した。口縁部の破片であり、全体の形状は不明である。色調は褐色であり、焼成は不良である。胎土に雲母の混入が顕著であり、縄文時代中期の阿玉台式土器の破片と思われる。

3は縄文土器の破片である。Qトレンチの表土中より出土した。口縁部の破片であり、全体の形状は不明である。色調は褐色であり、焼成は不良である。胎土に雲母の混入が顕著であり、縄文時代中期の阿玉台式土器の破片と思われる。

4は縄文時代の敲石と思われる。Xトレンチの表土中より出土した。素材は安山岩質砂岩であり、表裏に使用痕が認められる。

3 古墳時代（第8図、図版5）

遺構の検出はみられず、遺物が表土中より2点出土したのみである。

5は須恵器の破片である。Lトレンチの表土中より出土した。体部の破片であり、全体の形状は不明である。表面に敲き締めの痕跡が認められる。色調は黒色であり、焼成は不良である。

6は、須恵器の破片である。Vトレンチの表土中より出土した。体部の破片であり、全体の形状は不明である。表裏に敲き締めの痕跡が認められる。色調は暗灰色であり、焼成は良好である。

4 中・近世

遺構の検出はみられず、7の砥石1点を確認した。Lトレンチの表土中より出土した。素材は凝灰岩であり、4か所の使用面がみられる。



第8図 宝馬遺跡93-204地点遺物実測図

第5章 まとめ

出口向遺跡210地点

今回の調査は調査区が遺跡の北側部分の舌状台地の基部であり、調査そのものが細長い調査区であったため遺跡全体の性格を正確に反映しているとは言いにくい。今回の調査区に限っては上層の遺構、遺物の検出は認められなかった。

また下層の確認調査も併せて行ったが、遺物等は検出されなかった。

新山遺跡43-10地点

今回の調査は調査区が遺跡の北側の支谷の谷頭部分である。今回の調査区では上層の遺構、遺物の検出はみられなかった。

また下層の確認調査も併せて行ったが、遺物等は検出されなかった。

宝馬遺跡93-204地点

調査区は栗山川の支谷の最深部の台地上の部分であり、確認調査の段階で縄文の遺構2基が検出されたのみである。互いの関連性は乏しく性格も不明である。縄文土器少量が表土中から出土したが、いずれも縄文中期の阿玉台式に属するものである。

また下層の確認調査も併せて行ったが、遺物等は検出されなかった。

写 真 図 版



遺跡周辺航空写真



出口向遺跡210地点
全景



出口向遺跡210地点
確認トレンチ



新山遺跡43-10地点
全景



新山遺跡43-10地点
確認トレンチ



宝馬遺跡93-204地点
全景



宝馬遺跡93-204地点
確認トレンチ



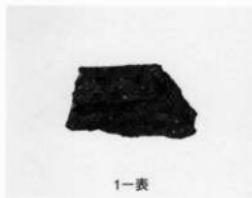
宝马遺跡93-204地点
土層断面



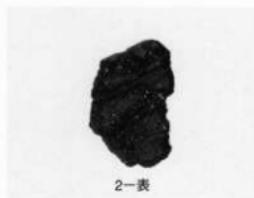
宝马遺跡93-204地点
1号土坑



宝马遺跡93-204地点
2号炉跡



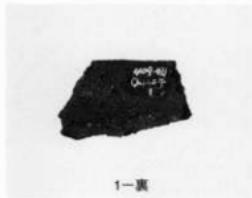
1-表



2-表



3-表



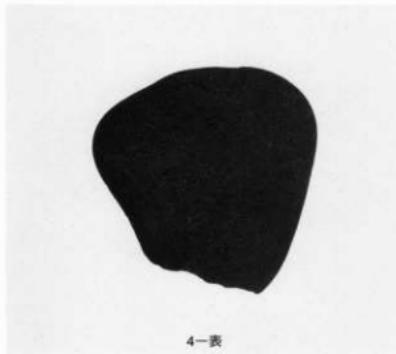
1-裏



2-裏



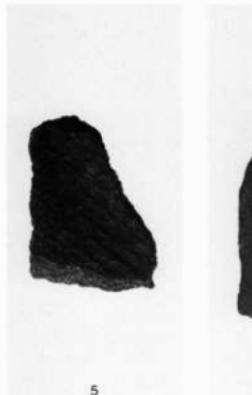
3-裏



4-表



4-裏



5



6



1-表

報告書抄録

ふりがな	しゅようちょうどうなりたまつおせん							
署名	主要地方道成田松尾線XIII							
副書名	芝山町出口向遺跡210地点・新山遺跡43-10地点・宝馬遺跡93-204地点							
巻次	XIII							
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第419集							
編著者名	速藤 治雄							
編集機関	財団法人 千葉県文化財センター							
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-1 TEL043-422-8811							
発行年月日	西暦2002年1月25日							
所収遺跡名	所 在 地	コ ー ド	北 緯	東 經	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
所 収 遺 跡	市町村	遺跡番号						
出口向210	千葉県山武郡芝山町宝馬字出口向210ほか	409	033	35度 42分 37秒	140度 24分 15秒	20001101～ 20001130	153	道路建設
新山43-10	千葉県山武郡芝山町宝馬字新山43-10ほか	409	033	35度 42分 39秒	140度 24分 13秒	20001101～ 20001215	46	道路建設
宝馬93-204	千葉県山武郡宝馬字宝馬93-204ほか	409	035	35度 42分 57秒	140度 24分 03秒	20001101～ 20001215	695	道路建設
所 収 遺 跡 名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物		特 記 事 項		
出口向210	包蔵地	縄文時代						
新山43-10	包蔵地	縄文時代						
宝馬93-204	包蔵地 包蔵地	縄文時代 古墳時代	土坑 1基 炉跡 1基	土器片 須恵器片				

千葉県文化財センター調査報告第419集

主要地方道成田松尾線 XIII

—芝山町出口向遺跡210地点・新山遺跡43-10地点・宝馬遺跡93-204地点—

平成14年1月25日発行

編 集 財団法人 千葉県文化財センター

発 行 千葉県土木部

千葉市中央区市場町1番1号

財団法人 千葉県文化財センター

四街道市麗波809-2

印 刷 株式会社 正 文 社

千葉市中央区都町1丁目10番6号
